

ほうこん

題字・清水英夫

GALAC・12月号・付録
2017年12月6日発行(毎月1回6日発行)
昭和43年3月8日第三種郵便物許可
〒160-0022
東京都新宿区新宿5-10-14 中村ビル2F
NPO法人放送批評懇談会
TEL(03)5379-5521/FAX(03)5379-5510
ホームページ <http://www.houkon.jp/>
Eメール kondankai@houkon.jp
編集・藤田真文

第55回ギャラクシー賞 記念事業実施決定

10月理事会報告

2017年10月25日、10月理事会が開催された。

1. 委員会活動報告

◇出版編集委員会 水島委員長

・12月号表紙は関ジャニ∞村上信五さん。多くの引き合いが予想されるため、増刷して対応する。

・2018年1月号は特集「第55回ギャラクシー賞上期」。各部門の応募数増加に伴い、編集委員会内でも議論し、「GALAC」を4ページ増とすることを決定した。表紙は吉田鋼太郎さん。

・2月号は選挙報道を特集する。表紙は長澤まさみさん。

◇選奨事業委員会

〈テレビ部門〉 岩根副委員長

・9月29日に月評会を開催した。月間賞には、NHKスペシャル「スタートアップドキュメント 沖繩と核」

(NHK)、「たけし誕生」オイラの師匠と浅草」(NHK)、帯ドラマ劇場「やすらぎの郷」(テレビ朝日)、連続テレビ小説「ひよっこ」(NHK)の4本を選んだ。

〈ラジオ委員会〉 橋本委員長

・10月24日に定例会を開催し、地元密着情報番組を聴取した。

・55回上期の応募数が大幅増加し、50本となった。

〈CM部門〉 稗田委員長

・10月16日に定例会を開催し、27本のCMを視聴した。

・今年度から募集をスタートしたラジオCMだが、55本と予想を上回る応募数となった。

〈報道活動部門〉 事務局

・10月22日に選考会を開催し、応募作品9本から、3本の上期入賞候補作品を選出した。

・報道活動部門への応募数が減っているのではないかと、という水島理事の意見を受け、議論を交わした。「局が応募するためのアクセスルートが乏しいのではないか。応募制だけでいいのか」もともと報道活動への応募数は、ここ数年は年間で30本代をキープしている。応募本数が減っているわけではない。ギャラクシー賞の案内に過去の受賞作リストを同封し、報道活動の対象をわかりやすくするようにしている」HPに委員たちの座談会やブログなどを掲載し、不特定多数に活動がわかるようにしたほうがいいのではないかなど、意見があり、丹羽委員長に検討をお願いすることとした。

◇企画事業委員会 桜井副委員長

・10月10日に委員会を開催した。次回セミナーは2018年2月の開催を別途にテーマを立案中。

◇広報委員会 滝野理事

・10月11日に広報委員会を開催した。

・月間賞プレスリリースのフォーマットを作成した。これまで送付していた新聞各社に加え、各スポ

ーツ紙、業界紙、ネットニュースなどにもプレスリリースを送ることとした。

・18年5、6月の完成を目指し、HPのリニューアル案を検討中。ギャラクシー賞の選評をより詳しくしたもの掲載するなどの提案があるが、詳細は今後の理事会で提案する。

・「GALAC」12月号表紙、村上さんは事務所の方針により本人写真のネットやSNS掲載は一切NGのため、宣伝方法を検討。スタジオ写真を掲載するなどし、10月12日より宣伝開始。着金作業の負担軽減、印刷部数の目安になるメリットを踏まえ、同日よりオンラインショップで事前予約をスタートした。

・理事会では、フェイスブックに各委員会の投稿を載せるなど活用方法があるのではないか。ウイキペディアの担当を決め、内容の修正やポリュームアップする必要があるなどの意見が出た。

2. その他
第55回ギャラクシー賞記念賞／事業について

・第55回ギャラクシー賞記念事業を行うことを決定。2月発行の「GALAC」

「LAC」に志賀信夫賞と合わせ投票用紙を同封する。選考方法も志賀信夫賞と同様、正会員の投票結果を受け常務理事会で決定することとする。記念賞の対象は継続審議とする。

次回の理事会

11月30日(木)、12月20日(水)

【出席】音好宏、橋本隆、藤田真文、水島宏明、稗田政憲、滝野俊一、入江たのし、岩根彰子、茅原良平、五井千鶴子、坂本衛、桜井聖子、嶋田親一、鈴木健司、鈴木嘉一、山田健太、中島好登

会議記録

【10月】

10日 企画事業委員会
11日 広報委員会
16日 (選奨)CM定例会
出版編集委員会
23日 (選奨)ラジオ定例会
理事会
24日 (選奨)テレビ月評会
25日
29日

新入正会員自己紹介

ラジオと人の媒介者を目指して

豊田拓臣

初めて自発的にラジオを聴いたのが13歳。それから四半世紀の間、ずっと聴き続けていたら仕事になっていました。

とはいえ、作家としてではありません。ラジオを聴いて番組取材やしゃべり手のインタビューをし、主に雑誌やムックに寄稿しております。ラジオをもっと多くの人に聴いてもらうにはどうすれば良いのか考えた結果、リスナーと同じ目線で、「こんなに面白いものがあるよ」と伝えようと決めたからです。

以降、フットワークの軽さを身上に全国各地のラジオ局を取材。必要とあらば文章執筆だけでなく、写真撮影、編集も行っています。紙媒体の特徴はわかってはいるつもりです。また、昔パソコン自作マニアだったこともあり、インターネットの長所や弱点も何となく見えてきました。諸先輩方のお話をうかがい、下の世代に企画として提案し、ラジオを盛り上げたく入会致しました。何とぞよろしくお願い申し上げます。